

企画展「空間へのおもい イサム・ノグチ「AKARI」とともい」

「夜雪」

作品「夜雪」の画面は、中心から大きく二つの世界に分けられています。銀泥と胡粉を使った銀とも白ともとれる世界は降る雪を、墨による黒い世界は夜の闇を表しているのでしょうか。二つの色は互いに決別するでも交わるでもなく、ただ静かに寄り添っているように見えます。

桃紅は、夜の雪というものについて次のように綴っています。

「にんげんの眼で追うすべもない、深い、広い空に、さらにその外側から、おりてくる無数のもの、無限の点滅が、白と黒との一切を語っているような気がしてくる。」

（『桃紅 私というひとり』2000年）
幼い頃から墨に親しみ、常に墨と



図版掲載 『夜雪』2001年
和紙、墨、銀泥、胡粉

もに歩んできた桃紅にとって、白と黒という色はあらゆるものを見い出すことができる特別な色です。

作品の中で桃紅は、人間が創り出すことのできない自然の闇、雪の色を抽象のかたちで表すことで、闇が持つ深み、心のありようによってさまざまに変化する自然のものの色を、白と黒という限られた色だからこそできる無限の表現に託そうとしたのかもかもしれません。

今回の企画展では、米国を代表する現代彫刻家イサム・ノグチが岐阜提灯という日本の伝統的な美に出逢うことで生まれた光の彫刻「AKARI」作品とともに、桃紅水墨の新たな魅力を紹介しています。

- 会 期…12月27日(日)まで
- 入館料…高校生以上300円
中学生以下無料
- 休館日…月曜日(休日を除く)、
および祝日の翌日
(土・日・休日を除く)
- 開館時間…午前9時～午後4時30分
- 照会先…篠田桃紅美術空間
(市役所7階)
☎23-7756

ひとひと
女と男

ともに自分らしく生きよう vol. 65

「さんかくの木」

男女共同参画社会

このコーナーでは、葉に書かれた内容をさんかくサポーターが紹介していきます。

「妻から夫へ」、「子どもからお父さん・お母さんへ」、また「女のひとりごと」が大半を占める中で「夫から妻へ」の感謝・ありがとうのコメントが1つしかなかったのが少々寂しく意外でした。その貴重なコメントがこれです。

「奥さんいつもありがとう、もう少し家計がんばります」

若いパパから妻へのメッセージでしょうか。若いカップルが共に一生懸命働き、家事や子育てなどの負担が妻に重くのしかかり、毎日妻への感謝の念が一杯だったのでしょ。男として思っているもなかなか口にはできない言葉です。

家事や子育ては多少手伝い協力するとしても、妻がして当然という意識が男性のどこかにまだまだ根強く残っており、また日ごろ妻に対して感謝しありがとうの気持ちがあってもなかなかそれを面と向かって言えない、これは男性特有の「照れ」が年齢に関係なくあるのではないかと思います。

男性が家事・子育てなどにも積極的に参画することで女性の立場・気持ちを理解でき、夫婦、家族間のつながりを深めていくためにも相手を思う気持ちを素直に言葉にし、はっきりと伝えることが大事なことでしょ。

男女共同参画というと大変むずかしく堅苦しいことのように思われますが、身近な男女がお互いの立場を尊重し、お互いを気遣いながらコミュニケーションを良好なものにする関係を築くことが肝要であり、はじめの一步ではないでしょうか。

妻や子どもにもっともっと「ありがとう」を言いましょ。

さんかくサポーター<F>



◀わかきプラザ「学習情報館2階」
男女共同参画コーナーでご覧になれます。

<照会先>さんかくサポーター事務局 (企画政策課内) ☎23-6876